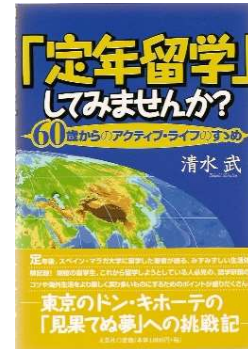


定年後の人生に再投資を

まもなく年度末を迎えます。定年による退職がこの時期になる方も多いかと思えます。人生の新たなスタートです。目標と希望を掲げ元気よく飛び出したいものです。

人生 100 年と言われる時代です。平均でこれからまだ 20 年近くの舞台が広がっています。いろんな定年論が語られていますが私は 80 代に入った今「この定年後の生き方でよかったんだ！」と心から満足しありがたく感謝しています。個人的で特殊な体験かもしれませんが、これから定年を迎える皆さまの何かのヒントとなればとの思いで綴ってみました。ご参考になれば幸いです。

21 年前に 60 歳で定年退職した私は現役時代から海外留学を夢に抱いていました。仕事でパナマに赴任することになったとき 35 歳でゼロからスペイン語の勉強を始めました。10 年間の駐在中に“現場でのたたき上げのスペイン語”を身につけることができました。そこでせっかくのスペイン語を学問的にも系統立てて勉強しておきたいと定年 2 年目に（1 年目は失業保険等の関係で日本を離れることは難しかった）南スペインにあるマラガ大学に留学したのです。「残り 20 年と言われる人生への再投資」との思いからでした。



スペイン語の勉強もですが、世界から集った若者たちとの交流はまさに“第二の青春”と言えるほど楽しく充実した 1 年となりました。歴史的にキリスト教とイスラム教が融合したアルハンブラ宮殿やサグラダファミリアなどスペインに数多い世界文化遺産も訪ね歩くことができました。そしてこんな素晴らしい留学生活の模様や各地を訪れた模様を“

あとに続く定年退職者の皆さんに是非お伝えしたい“と「定年留学してみませんか？—60歳からのアクティブライフのすすめ—」との本を自費出版したのです。

その後「ドン・キホーテ」の作品の舞台ラ・マンチャを訪ねた紀行が郷里の信濃毎日新聞に連載されたことが契機となって、私は自分を「東京のドン・キホーテ」と勝手に名乗り上げ世界文学紀行を始めました。こうして 60 代半ばから 70 代半ばまでの 10 年間に訪れた国はちょうど 13 カ国、15 作品の舞台になりました。そこで自分のホームページを立ち上げ、これらの紀行やエッセイ、新聞投稿のコラムなども掲載してきたところです。



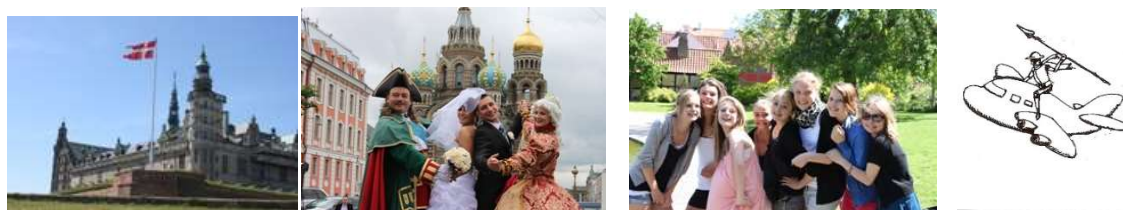
80 歳代に入って体力的にも限界が見え始め、さらに世界的な新型コロナウイルスの広がり海外旅行が制限されて現在はどこにも行けません。でも今、留学経験と文学紀行は国内でいろんな面で生きてきています。

スペイン語と英語は元の職場で海外から来日した SGI（創価学会インタナショナル）メンバーのアテンドや地元の中学校の外国人子弟の日本語教育に、また去年は東京オリンピックのボランティアとして晴海の選手村で活動に役立ってきました。東京都の観光ボランティアの一員にもなっていますが、現在はコロナで休止状態といったところ。

ラッキーなことに 2 年前に自宅近くに昭島市の総合図書館が誕生しました。その一角で私は現在「世界文学を学ぶ会」を主宰し、これまで「ドン・キホーテ」「風と共に去りぬ」「赤毛のアン」「ロミオとジュリエット&ハムレット」についてパワーポイントで作品の舞台の写真を紹介しながら講演をしてきました。コロナ感染の状況次第で続きの作品も取り上げていく予定になっています。



恵まれた経過と環境にただ感謝しているところですが、これは最初に「自分に再投資」したことが生きてきたからだと思っています。残念ながら現時点での留学は難しい環境にありますが、海外に限らなくても国内留学、またはいろんな視点から自分への投資はできるかと思います。同じ歳だった「欽ちゃん」こと萩本欽一氏が 70 代で大学に通ったという話しは有名ですね。個人的な交流もあった著名大学の英語の堪能な経済学部長（女性）は折ある毎に「私も定年後は清水さんのような生き方をしたい」と語っていました。自慢ごとを綴ったようになり恐縮ですが、この拙文が皆様の夢を開く刺激となりご参考になるところがあれば幸甚この上ありません。



(写真：前ページの 1 枚はマラガ大学のクラスで一緒の仲間を招いて自宅<借用マンション>のベランダでの楽しい語らいのひととき。本ページは上の列左から「ドン・キホーテ」「風と共に去りぬ」「赤毛のアン」「ロミオとジュリエット」、下の列左から「ハムレット」「戦争と平和」「アンデルセンの作品」の舞台を訪ねたときのものです。右端は私のペンネーム、“見果てぬ夢”ぬ向かって進む「飛行機に乗ったドン・キホーテ」のイラストです)

定年になったら「料理を始めること」も是非お伝えしたかった点ですが長くなるので次回にご紹介させていただきます。